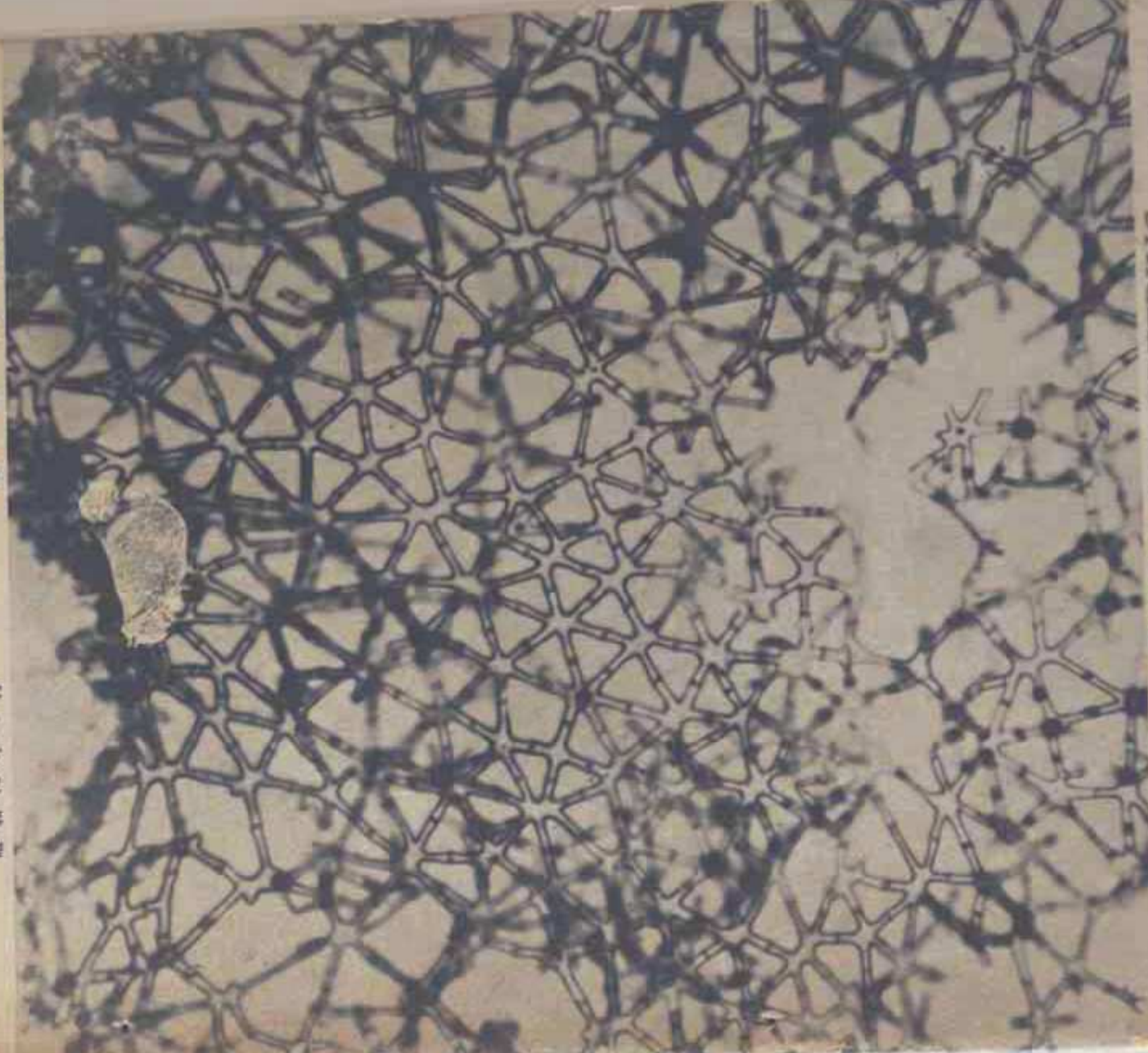


採集と飼育

春季特大號

第3卷第4號
昭和16年4月



VOL. 3 No. 4

COLLECTING AND BREEDING

April 1941

昭和十六年四月二十八日發行
昭和十六年三月二十八日印刷
昭和十六年三月二十八日印刷

採集と飼育

第3卷第4號 春季特大號

(昭和16年4月)

目次

表紙	登心の星狀細胞(藤大)	山崎林治	91
圖版 10	キアゲハの變態	工藤茂美	122
圖版 11	幼稚園の子供の繪	大崎治部	129
圖版 12	節分草	久内清孝	129
<hr/>			
飼鳥雜感	侯爵山階芳巖	山階芳巖	92
朝鮮に駐する鮭の人工孵化場	上田常一	上田常一	95
北海道に於ける鮭の越冬と捕獲	佐藤信一	佐藤信一	100
尖閣郡島を採る	正木任	正木任	102
淡水海綿の採集地	鈴木楢	鈴木楢	111
採集初	野原茂六	野原茂六	112
キノシシ・ヒダグマ・キングコブ・ラベンギン(動物園グラフ)	吉買忠道	吉買忠道	114
遙かなるユレーナ(科學する兵隊の感傷)	中村清	中村清	116
普賢象の杯狀葉(植物おぼけ便り 3)	松村義敏	松村義敏	117
フアラデー(良書紹介)			118
歸山先生のこと	市河三喜	市河三喜	119
アヲガハへの卵	鈴木裕	鈴木裕	121
幼稚園の理科	大崎治部	大崎治部	123
キジバトの雛の觀察	藤田康	藤田康	127
アゲハとキアゲハ(蝶の幼蟲と蛹)	工藤茂美	工藤茂美	130
ミチオオシエ	平井利朗	平井利朗	131
明治時代	岡田綱一	岡田綱一	132
代に於ける博物教育圖書目錄	小野文吉	小野文吉	132
春に薫るリラの花(小石川植物園より)	住々木尚友	住々木尚友	137
たんぼぼ(小石川植物園より)	上原梓	上原梓	139
日本鷄品評會			95
表紙の説明			128

本號の著者

山階芳巖侯爵は本誌2月號に御紹介いたしました 上田常一氏 京院師範の先生です 佐藤信一氏 北海道帝大理学部動物學教室 正木任氏 元の石垣島海峽所長 野原茂六氏 理学博士 Ph. D. 元の水戸高等學校教授で、わが國遺傳學界の元老 中村清氏 東大理学部助手で本誌の編輯委員入替中 松村義敏氏 江近兄弟女學校の先生 市河三喜氏 東大教授文學博士東大圖書館長 歸山先生の偉まにかかか人が今の日本にもつとも必要とされることおぼかしく感ぜられる 大崎治部氏 松澤幼稚園の先生 本誌にこれまで出された記事は各方面の注意をひいて居ます 藤田康氏 自由學園の先生理学士 工藤茂美氏 秋田縣能代市砂城國民學校の先生で熱心な本誌の読者です 平井利朗氏 京都帝大宇宙物理學科出身の理学士 岡田綱一氏 東京高師長教授理学博士本誌の贊助



尖閣群島を採る

正木 任

はしがき 江崎第三

臺灣の東北、八重山郡島の東北に横はる無人島嶼、尖閣群島は臺灣航路の船からも見え、その名を知る人さへ稀であるが、昭和15年2月5日に日本航空輸送株式會社の臺北旅行客機“阿蘇”が同群島の最大島魚釣島の

波打際に不時着して、俄かに吾々の前にクロロズアツプされたのであつた。この群島は夙に福岡縣人古賀辰四郎氏によつて開拓されたとは言ひ、その事情に關しては未だ知る所が少い。

従來同群島の生物學的調査は頗る不完全で、嘗て明治33年(1900)の昔に、理學士(後の醫學博士)宮島幹之助氏と沖繩師範學校の黒岩恆氏が古賀氏の特に替つた大阪商船會社汽船永康丸に便乗して、同群島へ渡航し、5月3日那覇を出發、同月20日歸着するまでの間、宮島博士は黄尾嶼に留まり、黒岩氏は同群島を巡航し、後に夫々の探檢記の發表さ

れたものがあるのみである。
* 又同じ頃理學士(後の理學博士、工學博士)吉原(徳永)重康氏も琉球へ探檢旅行を企て、自身この群島へは渡航されなかつたが、それに就いての報告がある。

私は嘗て八重山群島に遊び、石垣島に於て古賀氏等より屢々同郡島の話を聞き、その興味を唆られてゐたのであるが、偶々昨年(1939)石垣島測候所の正木任氏が同群島を踏渉されたのを聞き、特に請うて本誌の爲にこの一文をお願ひした次第である。正木任氏は嘗て石垣島測候所長で八重山生物學界の元老として知られた故岩崎卓爾氏の姪弟で、醫學新進の生物學者であり、従來幾多の研究を發表されてゐる。この得難き一篇を特に珍重して讀んで頂きたいと思ふ。

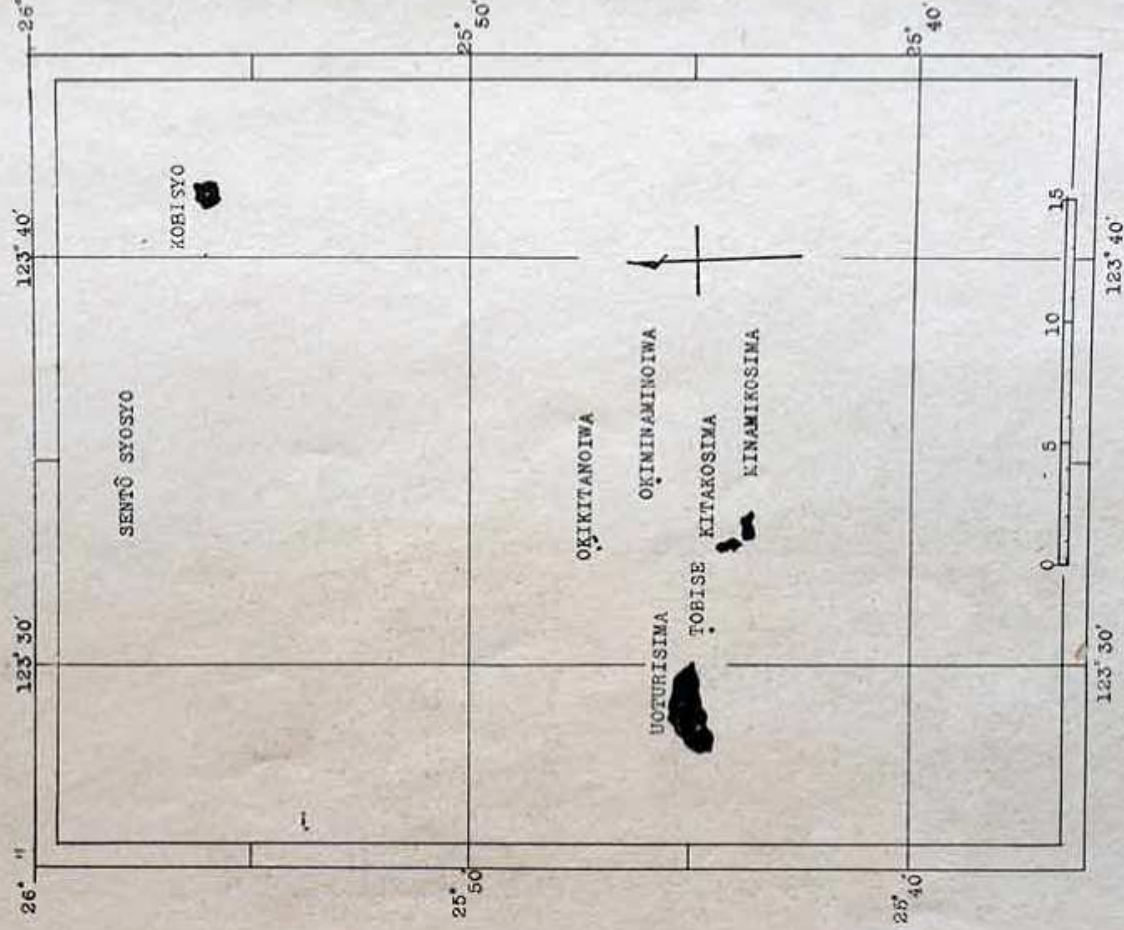


圖 1. 尖閣群島の位置(海軍水路部, “南西諸島 沖繩島至臺灣”より)

* 宮島幹之助 1900 沖繩縣下無人島探檢談. 地學雜誌 12; 585—596
1900—1901 黄尾島. 地學雜誌 12; 647—652, 689—700, 13; 12—18, 79—93. (動物の觀察記事特に詳し)
黒岩 恆 1900 尖閣列島探檢記. 地學雜誌 12; 476—483, 528—543. (同群島植物目錄を含む)

緒言

尖閣群島(陸軍陸地測量部による)は尖頭諸嶼(海軍水路部による)とも言ひ、南西諸島の中琉球弧の内側にあつて先島群島と對立して支那東海の一部に散在してゐる小群島で、石垣島から北北西約160 軒の距離にあつて無人島である。

行政上は沖縄縣八重山郡石垣町宇登野城ウデノに属すれども、昔から定住する者全くなく、明治20 年頃から大正年間漁期に漁夫が、一時的に鑿製造のために住む位のものであつた。

尖閣群島は臺灣東海岸を北上する黒潮の北東轉向點にあり、生物地理學上、海洋氣象學上から重要な役割の位置にあり、限りなく興味深い群島であるが、無人島で且つ交通の便がないためか、同群島に關して傳ふるものが少ない。こんな意味もあつて同群島探検を數年前から希望してをまつたところ、今度農林省農事試験場の資源調査隊に同行させて戴く機を得た。短期間であつたのと健康が勝れなかつたため、充分な生物調査をすることができなかつたが、同群島に就て概況を記す次第で、多少とも參考になれば幸甚の至りである。

この旅行は農林省農事試験場の小林純氏、高橋尙之氏、外同場員4 名、那覇市古賀商店の多田武一氏、人夫1 人に筆者と14 名の大勢であつた。始終行動を共にし無人島のこととて種々困難にも出會つたが、採集に際しては同行の御一同の御助力を忝うした。その中でも小林純氏高橋尙之氏、多田武一氏に特に厚く感謝の意を捧げ申し上げる。

また本稿を草するに當り、九州帝國大學教授江崎悌三先生、同助手安松京三先生、京都帝國大學の黒田徳米先生、天草臨海實験所三宅貞祥先生に直接間接に御世話にたりたるに對して深甚なる謝意を表するものである。

更に又寫眞を割愛して下さつた小林純氏に厚く御禮申し上げる。

位置と行程

尖閣群島は魚釣島、北小島、南小島、黄尾嶼、赤尾嶼の五小島に沖北の岩、沖南の岩、飛瀨等にて形成されてゐる。同群島の東端は赤尾嶼で東經124 度34 分、西端は魚釣島で東經123 度28 分、北端は黄尾嶼で北緯25 度56 分、南端は南小島で北緯25 度44 分に位置す(海軍水路部海國南西諸島沖繩島至臺灣に依る)。

さて一行は沖縄縣立水産學校の練習船帆船、海邦丸丸3



圖2 魚釣島にて、前例は蒲葵の葉脈を採集に具那國島から渡つてきた人達で、後列の向つて左は多田武一氏、右は筆者



圖3 魚釣島の根據地・防風壁の内側の假小屋と水標。

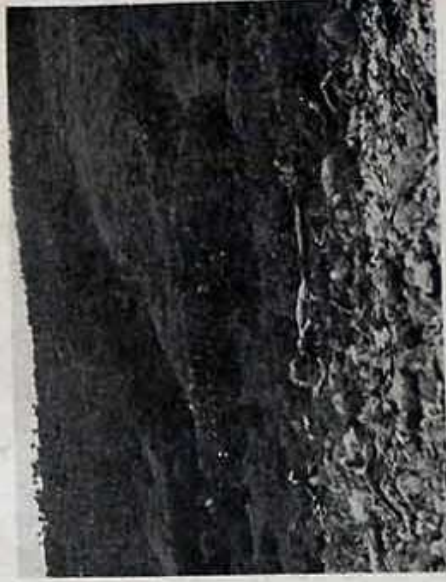


圖4 魚釣島、古城址の様な防風壁と蒲葵林

噸(84馬力)に乗込んで、昭和14 年5 月23 日15 時30 分石垣島の港を出發したが、途中機圍の故障で豫定時間よ

* 陸地測量部五萬分一地形圖“吐噶喇及尖閣郡島”(昭和8 年)によれば魚釣島の西端は東經123 度15 分に當る(江崎附記)。



図5 魚釣島北海岸の蒲葵林

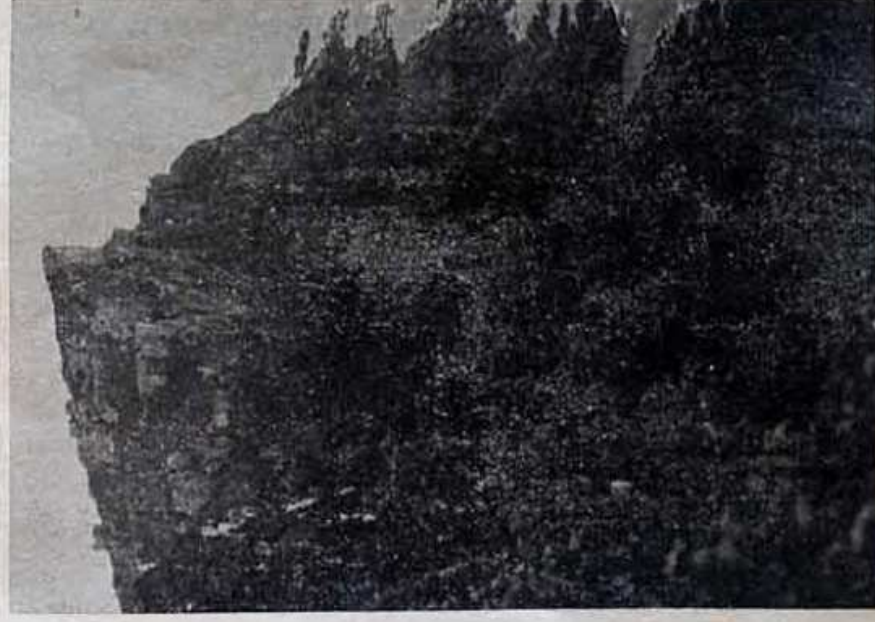


図6 魚釣島南岸の絶壁

り遅れ、5月24日17時25分魚釣島南側に投錨した。間もなく天候が急變し、北東の風雨強く(風速15~18米毎秒位)、驟雨性の雨が激しく降るので上陸できず、25日9時30分風稍々強く雨の降るのを侵して、魚釣島南岸に上陸して、27日8時54分同島を引上げて北小島に行き、11時32分同島南岸に上陸した。風雨強く波浪高く天候次第に悪くなるので15時50分引上げ、北小島沖にて碇泊し、28日7時35分南小島に上陸、9時同島を引上げ、再び北小島に上陸、11時18分乗船と同時に黄尾嶼に向ひ、15時35分黄尾嶼に上陸、6月3日まで滞在し、3日10時05分同嶼を出發し、赤尾嶼に行き17時10分赤尾嶼に上陸、18時45分同嶼を引上げ、乗船と同時に出發し、南々西にコースをとリ八重山群島の鳩間島に向ひ、6月4日11時鳩間島に上陸、約3時間滞在の後同島を出發し、19時無事石垣島に戻つた。その間尖閣群島の各小島の船階場所悪く、深海で波浪高く、潮流が早いので、上陸乗船に少なからざる危険を侵した。以下尖閣群島の五小島に就いて略記しよう。

魚釣島 魚釣島は和平山(Hoa-pin-san);またはクベシマ(久場島)等といふ別名がある。同島は稍々橢圓形の島で、尖閣群島中一番大きくて高い島で、海拔362米で古生層の上に見事な原生密林で掩はれある。島の周囲は11.128軒、面積367町2反3畝10歩である。

5月25日魚釣島南岸に上陸して、海岸線に沿うて西側に廻り、古賀商店の舊い輕製造所の跡へ荷物を運んだ。同島では平常でも風力強きため、家屋を造つても風害が多いとのことで、古賀氏は高さ約3米餘、幅2米、現在残つてあるものだけでも長さ120餘米もある石垣積み防風壁を作つたので、西側の沖から見ると古城の跡の様に見える(第4圖)。その内側に漁師の假小屋があり、附近に小川があつて、その水を塞止めて、2米角の石積の貯水用水槽が現在2個残つてゐるので、飲料水は豊富である(第3圖)。同島北海岸、南西岸及び西岸の海岸線の所々に淡水が豊富にあるので、水に不自由はしない。西岸の假小屋を根據地として調査を試みた。同所は魚釣島最西端にあつて海岸線には一寸した白沙濱がある。船溜になる様な所は全くないけれども、珊瑚礁の割れ目が西岸にあつて、幅5~6米位あるのでそこから小さいボートの出入ができる。しかし平常でも波と調子を合せ、波に乗つて急ぎ漕ぎ、波に押されて出入するので、少しでも風波にウネリが加はると、甚だ危険な所であ

* 古賀商店は那覇市西本町に在つて、魚釣島、南小島、北小島、黄尾嶼の4小島を所有してゐる。

る。同日15時頃から雨を仗して一番高い山の方へ登つた。326米(高度気壓計にて測る)まで登つたが、それから先は峻しく登れず、北方に下つた。その山中は原生密林で歩行に困難な所が多々ある。主として目に付くのは、

1. 蒲葵(ビロウ)(非常に多く全島到る處にあり殊に北側西側に多い)(第5圖)、2. タカサゴシヤラン(バイ)、3. リウキウガキ、4. タブノキ、5. イヌマキ等であつて闊科植物として、1. イリオモテラン、2. リウキウセッコクの変種が頂上附近の岩に澤山生えてゐる。

山の中の少し濕つた枯れ木葉の下に、或はオホタニワタリの根の附近に大きい陸産マイマイが採集できる。これらは次の如き新しく記録されるものであつた。

即ち 1. *Nesiotele solida* Kuroda. アツマイマイ(新稱) 2. *Ganesella tadai* Kuroda. タダメマイマイ(新稱)

鳥類では次のものが見られる(*は採集せるもの)

1. リウキウアカセウズビ、2. ヒヨドリ、3.*リウキウヨシゴキ、4.*シロサギ、5. キセキレイ、6. マジロ、7.*アマサギ、8. タカ、9. リウキウツツバメ、10. ツツバメの變種。

昆蟲類は少しく季節が早かつたのか餘り採集できなかつたが、蚊が非常に多いのは注意を要する。採集せるものはほとんど皆 *Culex quinquefasciatus* Say. ネツタイイヘカであつた。海岸の岩の割れ目や凹み等の天水の溜つた所には、蚊の幼蟲が實に多い。

蝶類は非常に少なく、1. ツツバメニテフ、2. アマミウラミジミの二種であつた。蒲葵中にはタイウカブトムシを見た位で豫想外貧弱であつた。

野鼠の多いことは注意を要する。

5月26日9時西海岸より南廻りで島を一周すべく出

圖8 北小島、左側の平な所はセグロアザサシ、右側の高い所はクロアシアウドリの様息地

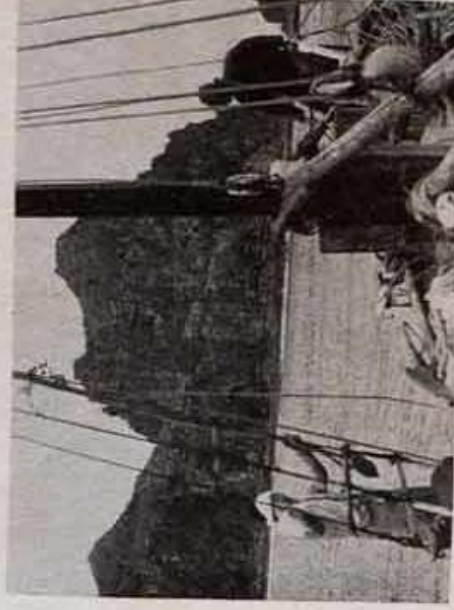


圖7 北小島の洞穴

掛けた。同島南東岸の海岸線は50~60米位の絶壁が續いてゐる(第6圖)。東海岸は殆んど全部屹立した岩で通れない。所々に崖崩れがあつて、登り下りは非常に困難で、繩を頼らなければならぬ。南東岸から北海岸へ山越すときなどには幾多の危険を侵した。北東側には北崗岩が所々に見られる。北東岸から北海岸の間、約3軒位の海岸線は大きな岩がごろごろしてゐるため、岩から岩へと飛んで渡るので並大抵の苦勞ではない。尖閣の親知らずでも命名したい位だ。北海岸の岸の間に體長1.5米位のヤエヤマニシキヘビを見なければいけません。場所が狭いので採集できなかつた。北海岸線の波打ち際にはフジツボやカメノテ、フトスジアマガと、ツツボラが澤山棲息してゐる。淡水貝類は採集できなかつた。北北西岸に少しばかり平地があつて、そこで與那國島から代用品時代の波に乗つてか、はるばると蒲葵葉脈を採取のため男女58名といふ大勢の人夫が来て、假小屋を作り合宿して採取してををつた(第2圖)。蒲葵の葉脈は汽船や軍艦等のデッキ用箒に重畳がられゐるものである。その附近に山崩れがあつて歩くのに相當困難した。島一周は半日位でできる豫定であつたが一日中かゝつて19時20分根據地に戻つた。

5月27日8時54分北小島に向つた。

魚釣島に豪雨或は地震の様な天災地變があつたのか、山崩れが多い。生物が比較的少ないのは興味ある問題である。

北小島及南小島 北小島は周囲3,164軒、面積20町1反で高さは海抜129米である。全島樹木は生えてゐない。ほとんど第三紀の砂岩の様で、海岸線には所々に隆起珊瑚礁がある。尖閣群島の中海洋島の一番多い島である。

南小島は周囲2,509軒、面積32町7反3畝1歩で、



圖 9 北小島、セグロアザサシの亂飛、杖にて叩き落されてゐるのに注意（5月28日）

高さ海拔149米である。地質は北小島とほとんど變りない様である。北小島と僅かに約200米しか離れてゐない。

5月27日11時33分北小島の南西岸より上陸した。同所の海岸線は珊瑚礁で、小さなボートでくりくり珊瑚礁の間を縫つて、上陸するので甚だ危険であつた。同所の近くに大きな洞穴があつて、内部は廣くて劇場の様な感じがする。この洞穴は天幕代用になるので同島の探検をする好都合の洞穴である（第7圖）。

附近の石の上にはクロアザサシ、セグロアザサシが澤山にをり、卵が無数にあつて足の踏み場もない位にある（第10圖）。

上陸した海岸の潮の満干線近くに2.5米の備良（ザンノイワ）の屍體があつた。死んでから約一週間位なる様に推定したが、腐敗して全く手の付け様もない。實に臭くて寄り附かれなないので、頭骨だけでも考へたがどうにもならなかつたのは残念の次第であつた。崖の登り始めから中腹附近には、リウキウカツツドリが雌や卵を抱いてをつて、人が近づくと親鳥は飛んで逃げようとはせず、卵や雛を見守つてゐる。卵が腐をなして鋭いので裸の様な物で押へて採る。

崖を攀ち登ると崖の頂上の一吋とした小さな所に出る。ここには黒脚雷夫翁（地方方言で馬鹿鳥と言ふ）が澤山にをり、人間が近寄つて羽毛を撫てやると遠和し

く人間を見てゐる。一見すると嘴が鷲や鷹の様になつてゐるので、恐しくて寄り附けない様だが、容易に生捕ることが出来る。羽を開くと約1.5米位あり、體重も相當に重く、4〜5羽位しか持てぬ。

天候が次第に悪化しつゝあるので、調査を中止して15時50分引上げた（第8圖）

ボートで本船へ歸る途中風雨激しく、ウネリと風波高く、ボートは潮水を被りつ折角の鳥の寫眞の入つた取枠を潮水のため全部駄目にしてしまつた。北小島は淡水はあるが、鳥糞のためか少しく黄色味を帯びてゐるので飲料には供されぬから、同島を探検するときは飲料水を充分用意することが必要である。

5月28日天候恢復し、晴時々曇の天氣であつたが、前日の餘波のためウネリは相變らず高い。7時35分南小島の西側へ上陸した。同島は北小島と變りない。

明治30年古賀辰四郎氏が鑛を製造した工場の跡が現に石垣で廻されてある。同所で古賀氏は北小島のセグロアザサシを捕獲し、刺製にして米國へ多數輸出をしたまうである。當時刺製鳥類一頭15錢位だつたさうである。同場所附近に飲料になる水があるが、多量にはない。岩の間から滴る水を塞止めて「辰の水」と印されてゐる。同水は水質は餘りよろしくない様で、少し酸っぱい感じがする。

同島には長さ3米餘の大蛇が居るといふ噂があつたので充分注意をしてをつたが見當らなかつたが、1.1米の蛇の脱皮した殻があつたので、蛇の棲息してゐるの事は事實である。

同島は屹立して頂上へは登れない。リウキウカツツドリが崖の上に多數居り、別の海洋鳥は餘り居らない。その外に變つたものは見當らなかつた。

異様に感じたのは北小島と僅かに200米位しか離れてをらぬのに、兩島の海洋鳥が異り、北小島にはセグロ鷲が、南小島にはリウキウカツツドリが各々大群をなして居ることである。何が原因してゐるか、不明

である。

9時00分南小島を引上げ、9時05分再び北小島に上陸した(南小島に面した方へ)。海岸線は岩の上には黒感刺が多敷に居り、崖を越すと少し傾斜になつて雑草が繁茂してゐる。廣さ約3~4町歩位の平地がある。その平地には全部セグロアジサシが棲息してゐる。その數何億といへよう。鳴き聲は耳を裂かんばかりで、飛び上るときは空を眞黒く曇らせるのである(第9圖)。その有様は筆舌を以て表し得ない程である。殆んど皆卵を抱いてをり、人間が近寄つても逃げようとはせぬ。卵は2~3寸から1~2尺置にあり、雑草の中に居る鳥は踏破らなければ歩めぬ位にあり、雑草の中に居る鳥は飛び上がることができず手で掴み捕ることができ、何千何百と欲するだけいくらでも生け捕ることができ、大きな聲で“ドン”と言ふと、ギヤギヤいふ鳴聲は水を打つた様に一撃もなくなり、飛び上つて空を眞黒に曇らせて、糞の雨を降らせる。

10~20米位空へ上つたかと思ふとギヤギヤいふ鳴聲は再び耳が今にも裂けんばかりとなり、5米位離れて大聲で話をしても通じない位である。ステッキを一振りすると2~3羽は捕れる。鐵砲を一發(鳩彈約30個位の散彈)打つたら28羽も捕れた。

このセグロアジサシの大群は確かに日本一といへよう。同場所には蜘蛛が棲息してゐる。

11時18分引上げ、12時00分黄尾嶼に向つた

黄尾嶼 黄尾嶼は行政上は久場島となつてをり、低牙吾菊又はサユンクク等の別名がある。同嶼は噴火島で全島熔岩である。海拔17米で、頂上には舊噴火口があり、口徑約50米、深さ20米位ある。島の周圍3.49軒面積88町1反3畝10歩である。30年前は草が繁茂してをつ生え、別に樹木は全くなかつたさうで、海洋鳥が澤山棲んでをつたといふ。その後古賀氏が開拓し、肥料原料採掘等をなし、柿、密柑その他の樹木の植林をしたさう

で、大きな樹木はない。

5月28日15時35分黄尾嶼西岸に上陸した。相變らず船附場所悪く、海岸線には大きな岩があるので、非常な危険は度々あつた。全員で天幕を張り終り(第12圖)、二隊に別れて一隊は海岸線を、一隊は頂上までの登山道を作つた。筆者は登山道を作る方に加はつて行つた。

途中山中のオホタニワタリの根の所には、魚釣島と同じ陸産具が澤山居る。17時頃頂上まで登つた。舊噴火口には蜜柑、文旦、バナナ等がある。18時歸つたら他の一隊の某氏は海岸線を廻る途中、海岸の岩間の海水溜りに交尾した虎鰐を掴みそこで、手を噛まれ大傷を起し、救急薬で間に合はず、同人を早速と石垣島へ急行させた。

同夜から天候悪くなり、5月29日朝來風強く、驟雨激しく去來し、11時雷雨となり、15時頃小降になつたので、再び頂上までの間を採集に出掛けたが、別に變つたものは採集できなかつた。

5月30日は雨で風向北に廻り、強風で何にもできなかつた。夜半頃急に風力が増して天幕の支柱が折れ、或は蜘蛛が切れる等大騒ぎとなつた。

5月31日は朝來風速15~18米位吹走してをつたが雨は小降になつて、午後から島を一周した。海岸線は大きな岸があり、岩から岩へと飛んで渡るので危険だつた。波打ち際にはホソスチツボラが採集できる。カメ



圖 10 北小島、卵を抱いたセグロアジサシの群。全部風の方角に向つてゐる(5月28日)

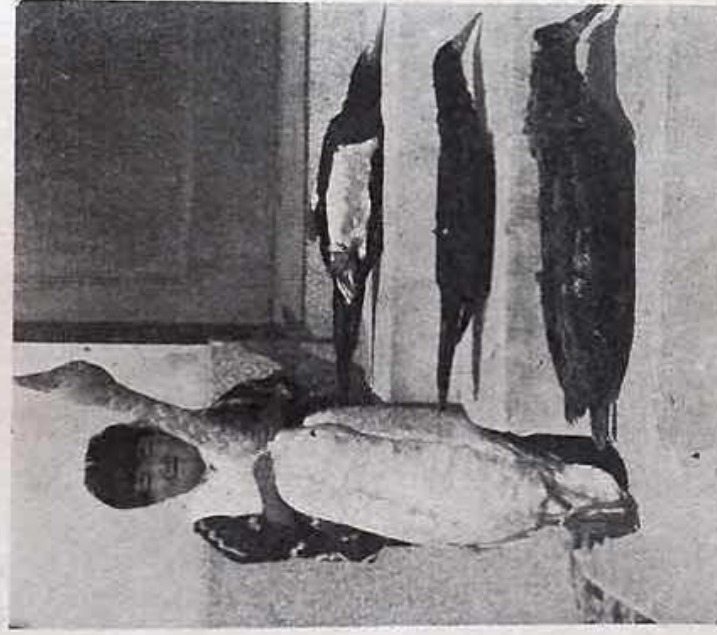


図 11 採集せる海洋鳥の假剥製。リウキウカカツラドリとクロアシアホウドリ。子供の持つてゐるのは西表島古見で採集したハイイロカガン。

ノテが澤山居る。

6月1日には島を横断し、6月2日には縦断した。同島の平地には甘蔗が野生化してゐる。20時頃クツワムシが鳴いてをった。5月28日より6月2日まで6日間採集をした。主なるものは;

蝶類 1. ツマグロヘウツモン、2. アカタテハの二種
鳥類 1. ヒヨドリ、2. リウキウツアカセウビス、3. メジロ、4. シロサギ、5. ウグヒス(啼聲を聞く)、6. ハト等でトカガ、ムカデ等がある。

海洋鳥類として鷺鳥が多く(第11圖、第13圖)、黒鰐刺、水風鳥等がある。黒鰐刺や水風鳥は日没後海洋から陸地に向つて群をなして飛んで来る。間もなくすると鳴き始めるが、鳴聲が乳飲兒の泣聲の様で、夜通し鳴くので氣味悪い程である。主として黒鰐刺が鳴く。眞黒闇に蝙蝠の様に黒い姿をして、ばたばたしてゐる。10米位歩くと間に顔や頭に2~3羽はぶつかかる程である。山の中には所々に直徑 10~20 厘米位の穴がある。で、注意して杖を押し込むとギヤギヤ聲がするので、掘起したら中から水風鳥の雌雄が出て来た。所々にある穴は殆んど水風鳥の巢であることを知つた。巢穴に落ち込むことも度々あつた。

同島の一番高い方の山の北西部に洞穴がある。中に這つたが別に何も見當らなかつた。

5月28日石垣島へ虎驅に囀れた人夫を連れて急行

した船は、無事着いたけれども、戻りは天候不良のため延期して、6月3日8時一行を乗せるべく来て呉れた。その間食料不足になり飲料水が無く、非常に苦しんだ。早速と乗船10時05分黄尾嶼を出發、東方100里の赤尾嶼へ向つた。

黄尾嶼を探検するには飲料水を充分用意してをかねたい。

黄尾嶼に於いて次の陸産貝類が新しく採集された。

1. *Pseudohelicarion masakii* Kuroda. マサキベツカフマイマイ (新種)

赤尾嶼 赤尾嶼は行政上は大正島となつてをり、久米赤島、爾勒里岩等といふ別名がある。第三紀の砂岩からなつた岩嶼で、海拔84米である。正確な測量したものがないため面積周囲等不明である。大體の周囲200米に足りない位の屹立した岩嶼で、大洋の唯中にある。樹木は全くない。頂上に雜草が生えてゐる位である。海洋鳥は多いが北小島程ではない。

6月3日17時赤尾嶼近くに着いたが、上陸する所がないので、島の南西岸からボートで大波に押されつゝ、岩の上に乗る上げ、波の干く時を利用して次の岩に飛んで上陸したのであるが、岩が滑ると、次の大波が来るので急いで跳び歩くので甚だ危険であつた。

島の近海は深く、潮流が早いので、錨を投ずる事もできないので、本船は島の近くを廻つて用事の済むのを待つてゐるので急いで島を一周した。

海洋鳥は黒鰐刺、背黒鰐刺等が見られる。

1. リウキウツバメ、2. イハツバメ、3. リウキウアカセウビン、4. ヨシゴイ 等も棲んでゐる。

同嶼は頂上へは登れないので別に採集はできなかつた。潮の満干線の岩にはフジツボが澤山着いてゐる。大きい岩の凹みの水溜にはニシキエビが群をなして棲



圖 12 黄尾嶼の天幕生活

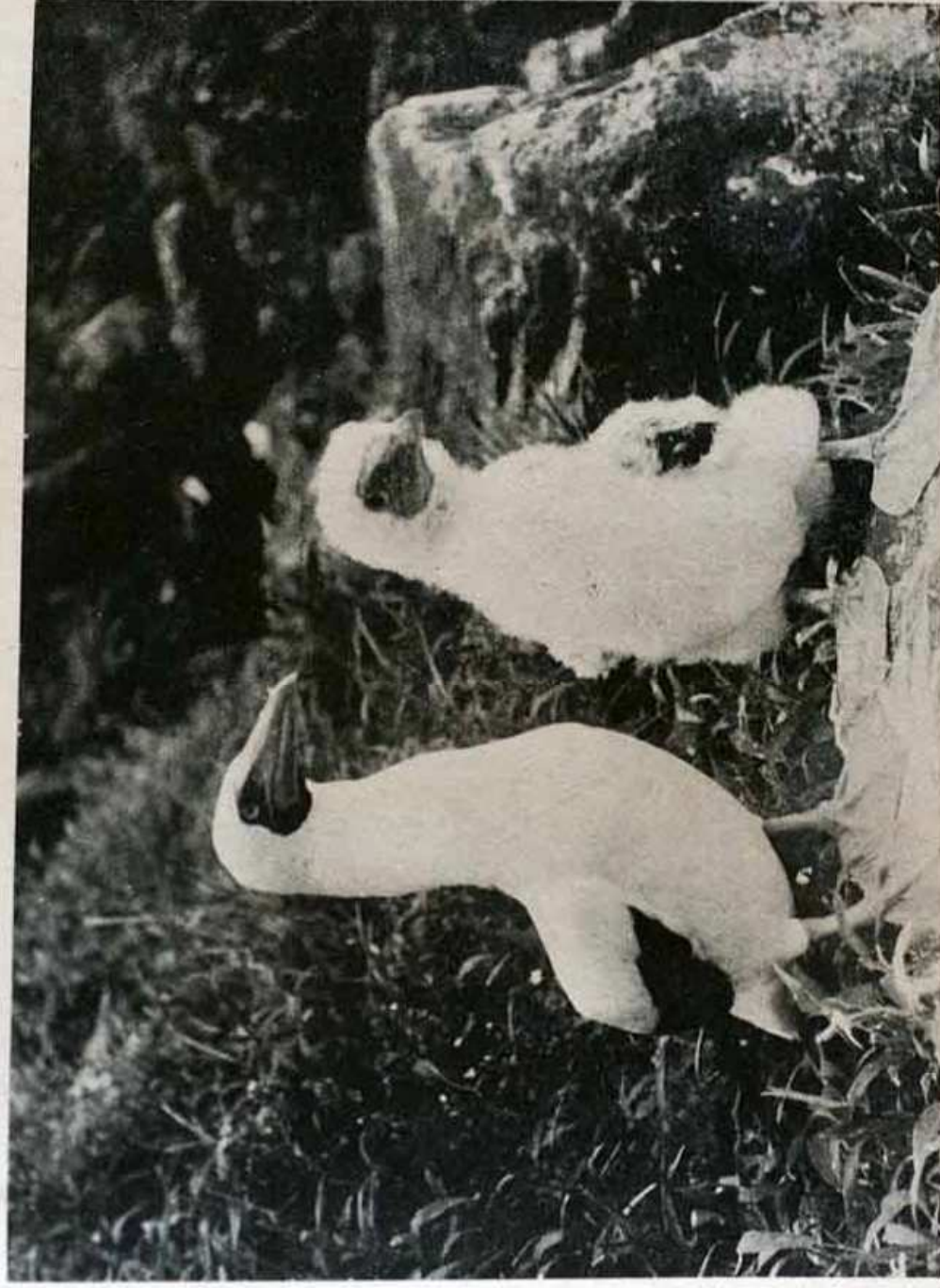


図 13 リウキウカワツラドリの子 (黄尾嶼にて6月2日)

んであるのが見えた。

同嶼は利用できる島ではなく、平地は全くないので野宿もできぬ。18時45分同嶼を引上げ、鳩間島へ向つた。翌6月4日11時鳩間島に着き、同日19時20分石垣島に無事着いた(鳩間島は八重山群島に属するから稿を別にして後日報ずる)。

次に判定を依頼した蟹類、昆蟲類及び貝類の目録を掲げる。

尖閣群島昆蟲類 (九州帝國大學 江崎悌三、安松京三先生同定)

May 27, 1939. 北小島

Protaetia brevitarsis Lewis. シラホシハナナムダリ

May 28, 1939. 黄尾嶼

Brachyplatys subaeneus Westwood.

ツヤマルカメムシ

Anoplocnemis castanea Dallas.

アシブトヘリカメムシ

May 26, 1939 魚釣島

Graphosoma rubrolineatum Westwood.

アカスヂカメムシ

Oryctes rhinoceros Linne. タイワソカンブトムシ
Glenea chrysomeaculata Schwarzer.

ルリボシカミキリ

Aphaenogaster (*Attomyrma*) sp.

Camponotus (*Camponotus*) sp.

Camponotus (*Myrmamblyx*) sp.

Lithurgus collaris Smith. キホリバナ

尖閣群島産屋脚類 (高桑良興先生同定)

May 29, 1939. 黄尾嶼

Sceloporella subspiniipes multians L. Koch

尖閣群島蟹類 (九州帝國大學 三宅貞祥先生同定)

June 1~2, 1939. 黄尾嶼

Zosimus aeneus Linne. ウモレアフギガニ

Grapsus grapsus tenuicristatus (Herbst).

ホソガライハガニ

Plagusia depressa tuberculata Lamarek.

イボシヤウジンガニ

Eriphia laevissima Latreille.

ヤフツアングニ

Pachygrapsus minutus (Milne-Edwards).

Epicanthus frontalis (Milne-Edwards).

May 26, 1939. 魚釣島

セビロガニ

Eriphia lacrimana Latreille.

Xantho (*Leptodius*) *exaratus* Milne-

ヤフツアマガニ

Edwards.

アフギガニ

Lodyia anaulipes (Milne-Edwards).

尖閣群島貝類 (京都帝國大學 黒田徳米先生同定) 黄ハ黄尾嶼, 魚ハ魚釣島

1. *Nerita costata* Gmelin.
2. *Nerita plicata* Linné.
3. *Nerita undata* Linné.
4. *Nerita polita* Linné.
5. *Littorinopsis obesa* (Sowerby).
6. *Littorinopsis pintado* (Wood).
7. *Tectarius vilis* (Menke).
8. *Littorivaga granulata* (Gray).
9. *Littorivaga picta* (Philippi).
10. *Littorivaga subnodosa* (Philippi).
11. *Semivertagus nesioticus* (Pilsbry et Vanatta).
12. *Planaxis abbreviatus ogasawarana* Pilsbry.
13. *Drupa ricina* (Linné).
14. *Morula anacares* (Kiener).
15. *Morula granulata* (Duclos).
16. *Morula mutica* (Lamarck).
17. *Thais aculeata* (Deshayes).
18. *Thais distinguenda* (Dunker et Zelebor).
19. *Thais persica* (Linné).
20. *Engina mendicaria* (Linné).
21. *Ecmans igneus* (Gmelin).
22. *Strigatella virgata* (Reeve).
23. *Conus ceylonensis* Broderip.
24. *Conus ebraeus* Linné).
25. *Conus rattus* Bruguière.

(陸産)

1. *Nesiohelix solida* Kuroda.
2. *Gauesella tadaï* Kuroda.
3. *Pseudoheliccion masakii* Kuroda.

史的記述

尖閣群島は昔から無人島であるが、古くは遣唐使が那覇港を出発し久米島、赤尾嶼、魚釣島、彭佳嶼福州への航路で、尖閣群島各小島が目標とせられた様である。明治17年那覇市西本町の古賀辰四郎氏が発見した様に傳へられてゐる様だが、その以前から知られてゐる。

英國軍艦サマラン號 (Samarang) が東洋探検の時 (1843—1846年、天保14年—弘化3年) にも魚釣島 (Hou-pin-san) を訪問してゐる。

- フトスチアマガヒ 黄, 魚,
 キバアマガヒ 黄, 魚,
 コシダカアマガヒ 黄, 魚,
 ニシキアラブネ 黄,
 テリタマキビ 魚,
 カフダカタマキビ 黄, 魚,
 イボタマキビ 魚,
 アラレタマキビ 黄, 魚,
 タイワントマキビ 魚,
 カスリタマキビ 黄,
 クリムシカニモリ 黄,
 クロタマキビモドキ 魚,
 キマダライガレイシ 黄,
 ウネシロレイシダマシ 黄,
 レイシダマシ 黄,
 フトコロレイシダマシ 黄,
 ツノテツレイシ 黄,
 テツレイシ 黄,
 ホソスチテツボラ 黄, 魚,
 ノシガヒ 黄,
 ベツカフバイ 黄,
 コシヤカタチ 黄,
 シロセイロンイモ 黄,
 マダライモ 黄,
 ムシロイモモドキ 黄,
 アツマイマイ 黄, 魚,
 タダマイマイ 魚,
 マサキベツカフマイマイ 黄.

同群島は久しく所屬が決定しなかつたが明治27—28年の戦役後、明治29年勅令を以て帝國領土として石垣町に屬せしめられた。

同群島の中、魚釣島は飲料水がある關係で、同島を根據地として古賀辰四郎氏が事業を始めた様で、明治18年頃同群島開發に相當な犠牲を拂つて、一時は非常に盛な事業となり、移民を勧誘等してをつた。その後種々事情があつて、今日では廢類した状態となつてゐる。

黄尾嶼は20數年前古賀氏直營で2ヶ年間鑛探採掘が

企てられ、その後臺灣肥料會社の經營で採掘されたことがあるが、腐蝕の値が安くて採算がとれず、事業を放棄して今日に至つた様で、その事業の跡が今日まで残つてゐる。

黄尾嶼は飲料水無きため、3箇所に飲料用天水貯水槽が煉瓦積で作られ、また2間位の縦斷横斷の道路の跡が繁茂した草叢の中に見られる。同嶼は飲料水不足な時ははるばると魚釣島まで小舟で水取に出掛けた様であった。

事業開始當時は食料不足の時は、尖閣群島から石垣島まで斜舟を二艘並べて、前と後の二ヶ所に棒をあげてひとりで縛つて、3~4人で漕いで来た事も度々あつたといふ。明治44年頃から石油發動機船ができたので、食料不足等の不安等はなくなつた様である。

北小島のセグロアヂサシ刺製事業は明治43年頃までやつた様で、その後ほとんど中止の状態となつて今日に及んでゐる。古賀氏は同島開發に盡力した功により、藍綬褒章を賜つた。

結語

以上が尖閣群島の概況であるが、要するに尖閣群島は生物地理學上興味ある所で、人為的の攪亂を蒙らないう爲め、未發見の生物が多々あることと思はれる。

淡水海綿の採集地 鈴木裕

いつかお天気の好い日に東京府下の水元水郷に採集に行かれることをお奨めします。淺草驛松屋から東武線の電車にて30分もすると金町驛に着きます。ここからはハイキングコースになつてゐますが、魚を釣りに行く人の他にはあまり歩いてゐる人もありませんし、それに第一近くていいです。東京の近くにこんな好い採集地があつたのかと驚く程です。

少し遠廻りですが驛から線路傳ひに西へ戻つて行きませう。この川は水郷から流れてゐるのです。一寸待つて下さい。この踏切を渡る前に鐵橋の脚に淡水海綿がついてゐるのを見ながら行きませう。向ふにもありますから見るだけでいいです。

これから少しの間は單調ですが歌辭りながら行きませう。誰でもそうですが、採集に行つて何か珍品を見付けると嬉しくて人に自慢したくなるもんです。それは稚氣があつて好いんです。困ることはそれを聞きつけて我も我もと押しかけて荒してしまつたり、一度に絶えさしてしまつたりすることです。ですからうつつかり發表できません。實際ハイカー達が、歸るまでに萎れてしまふ様な花をやたらにつむむなんか少し無慙といふ氣がします。きれいな花を手折るのは人

僅か2週間の採集にて陸産貝類の新種3種を發見したことは特筆すべきことである。昆蟲類その他にも新しきものの發見されることを期待してゐる。

魚釣島の原始林の保護、北小島のセグロアヂサシの大群、黄尾嶼の鰓島及水尻島等の濫獲の取締り等は緊急必要なことで、セグロアヂサシの繁殖地として天然紀念物の指定をなし、北小島への上陸禁止をやつて欲しいと思はれる。

終りに臨み各島々に於ける忘れ難き愉快な無人島生活の苦樂を共にされし一行に對し再び繰返して深く感謝の意を表して、禿筆を開くこととする。

参考文献

沖縄郷土誌教本

石垣町誌

水路部發行 南西諸島沖繩島至臺灣 No. 1203海

圖大日本帝國陸地測量部 20 萬分ノ1 地圖

石垣町土地臺帳

植物及動物 Vol. 1, No. 3, p. 406—410

尙 陸地測量部五萬分一地形圖 吐噶喇群島及尖閣群

島 水路部發行 臺灣南西諸島沿岸水路誌

も參考となすべし (江崎附記)。

情でせうがね、それを栽培飼育してみてもこそ、初めて無上の可愛さがわかるものですがね。

もうすぐです。その川の中の石ころの様なものを注意してごらん下さい。ヒメタニシですね。驚いたでせう。僕も初めは氣がつかかなかつたですね。その捨てある白菜の上にも群つてますよ。やあ魚を釣つて釣つてゐる。この寒いのには好きでなければなりません。

神社の前の水門、この邊が淡水貝の採集にはもつて来いのところですよ。御覽下さい。昨日でも上げたと思つて、このカラスガヒは生きてますよ。發育もいゝです。その細長いのは、イシガヒです。や、いゝのを採りましたね。これはマメタニシといつて、肝臓が青いトマの中間宿主です。あ、その枕に、淡水海綿が着いてますよ。割合にどこでも見られますが、あんなに大きいのはこの邊では珍らしいでせう。こちらの岸にもついてますね。あ、それは保存して置いて、標本にしよう。水草についでゐたもので、ほろほろにしませう。水草についでゐたもので、ほろほろにしませう。水草についでゐたもので、ほろほろにしませう。水草についでゐたもので、ほろほろにしませう。

朝を持って来た人はひつかき廻して御覽下さい。ザリガニが居るでせう。カラス貝も取れますよ。